ファイナルファンタジーIV

FINAL FANTASY IV

SUPER読本・中巻

The スーパーファミコン
8月23日・9月6日号特別付録

竜の口より生まれしもの

天高く舞い上がり

闇と光を掲(かか)げ

眠りの地にさらなる約束をもたらさん。

月ははてしなき光に包まれ

母なる大地に大いなる恵みと

慈悲(じひ)を与えん

古(いにしえ)からミシディアに伝わる言い伝えより引用

クリスタルはただ静かに

その光を讃(たた)えていた……。

CONTENTS

4……ワールドマップ

6……前号までのあらすじ

8……ミシディア王国

12……試練の山

18……バロン城

バロン城　地下水路……20

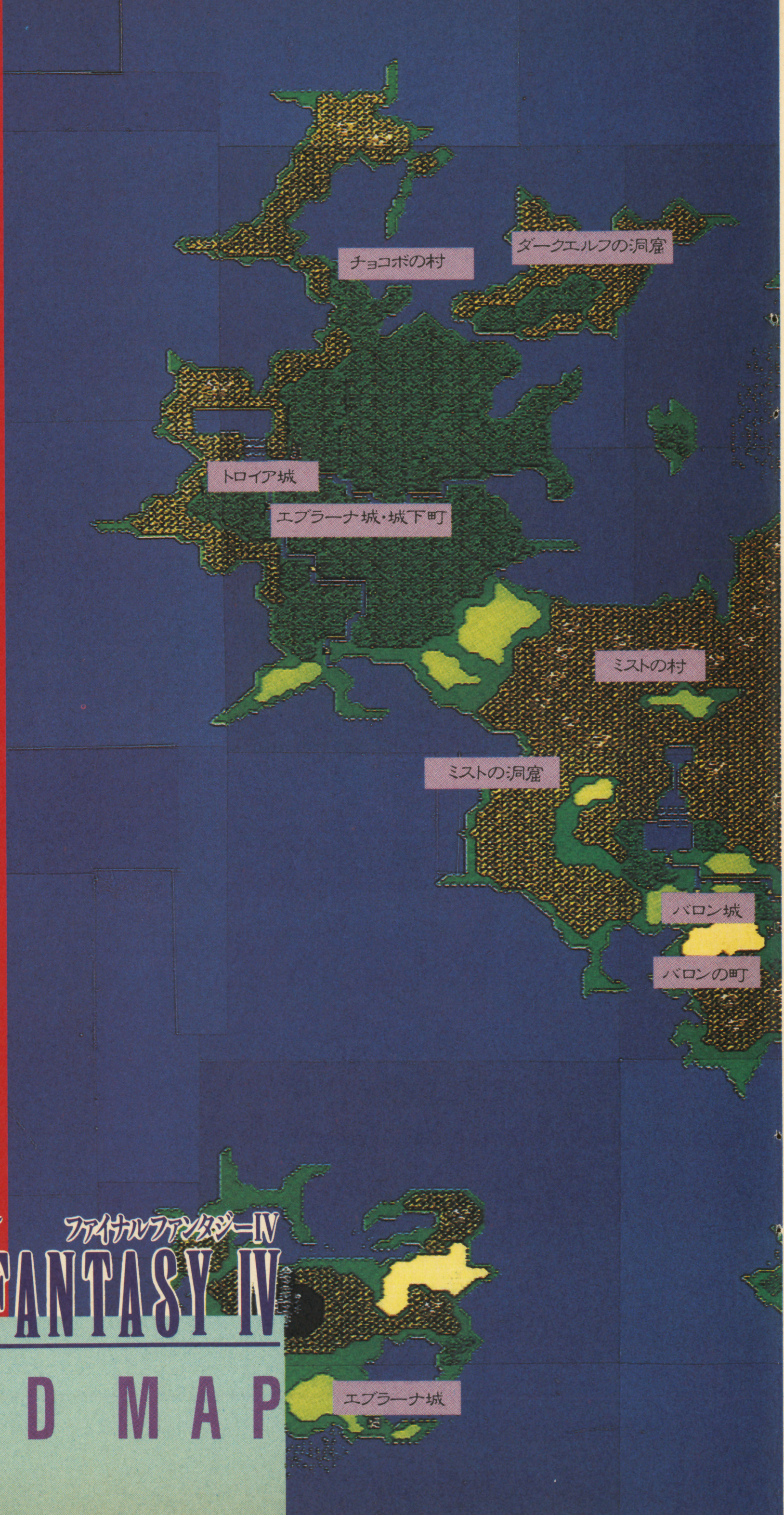
エブラーナ城・他……26

トロイア城……28

土のクリスタルは何処へ？……30

ファイナルファンタジーⅣ

FINAL FANTASY IV
WORLD MAP



ホプス山西口
ホプス山東口
ダムシアン城
アントリオンの洞窟
ファブール城
地下の湖
地下に通じる滝
地下水脈北口
地下水脈南口
カイポの村
ミスリルの町
ミシディア王国
試練の山
アガルトの村

前号までのあらすじ

「ここは、いったいどこなんだ……」体のアチコチが痛むうえに、頭をどこかにぶつけたらしく、セシルは自分がなぜこんなところで倒れているのか、いまいち把握できない。「確か、バロン王の命令でミシディアに向かって……そうだ！」セシルは少しずつ、数日前からの出来事を思い出していった……。

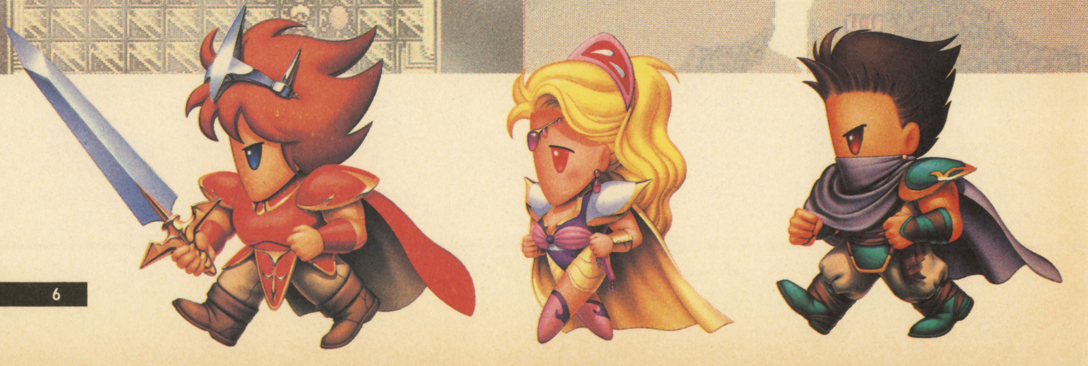
「セシル、いまより飛空挺団長の任を解く。かわって、幻獣討伐の任につけ！」バロン王の命令どおり、無抵抗の魔導師たちからクリスタルを略奪してきたセシルを待っていたのは、そんな冷たい言葉だった。おまけに、セシルのことをかばったカインまで、いっしょに赴くことになってしまった。なぜ、バロン王があそこまでお怒りになったのか、セシルにはいまだにわからない。そして、幻獣を倒し、ミストの村に辿り着いたところまではよかったのだが……。

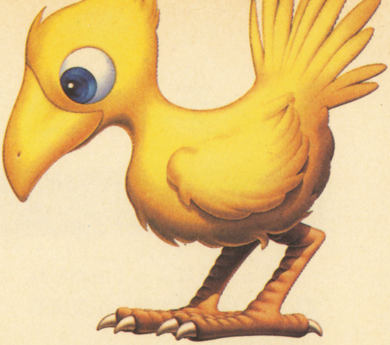
「ピカッ！」バロン王から預かったボムの指輪が、突然謎の閃光を発した。そして、バロン王の企てをセシルが理解したときには、カインとはぐれてしまった後だった……。

「私の名前は、リディアっていうの」ミストの村で出会った少女、召喚士リディア。みなし子となってしまった彼女を、セシルは放っておけなかった。結局いっしょに旅することになったのだが、そんななか、セシルの元に凶報が流れた。セシルの後を追って、バロン国を飛び出してきた白魔導師ローザが、高熱病で命が危ないというのだ。彼女を救うためには、砂漠の光という宝石が必要となる。セシルとリディアは、ともに砂漠の光を求めて、ダムシアン城へと旅立っていった。途中で賢者テラを仲間に加え、さらに地下迷宮に巣食うモンスター・オクトマンモスを倒して……。

「砂漠の光は、アントリオンの産卵地に行けば入手できるはずだ」テラと入れ替わりに仲間となった、王族ギルバート。彼の言葉どおりに、アントリオンの産卵地まで出向いたセシル。熾烈な戦いのすえ、砂漠の光を手に入れたセシルは、見事ローザを救うことができた。と同時に、仲間となったのだが……。

「よし、ファブール城に急いで向かおう！」セシルなき後、バロン国飛空挺団”赤い翼”を牛耳っているらしい、謎の人物ゴルベーザ。ヤツの次の狙いは、ファブール城に安置されている、風のクリスタルだろう。という考えの元に、セシルたちは一路ファブール城へと向かった。ダムシアン城との間には、ホブス山がそびえ立つのだが、ほかに行く手段はないのでやむを得ないだろう。と判断したセシルであった。





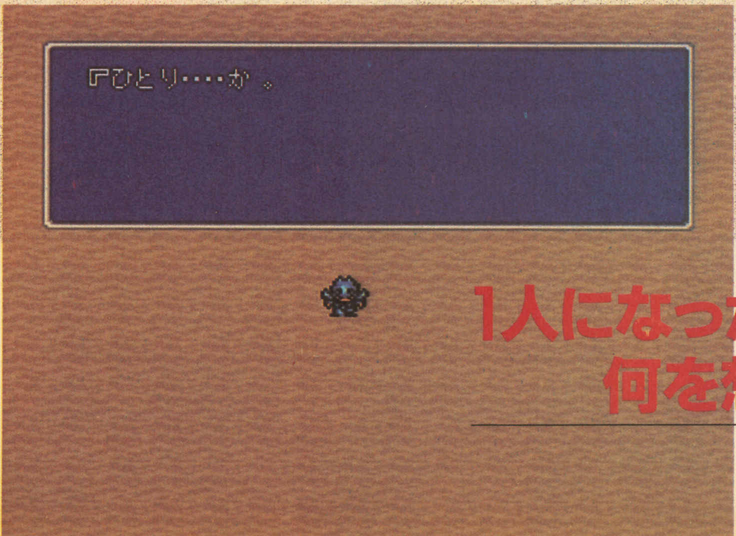
あ危ない！」１人のモンク僧が、巨大なモンスターに襲われようとしていた。幸い、セシルたちの助けにより難から逃れることはできたのだが。「私は、ファブールのモンク僧長、ヤン。危ないところを助けていただき、申しわけない」手短にセシルがいままでの事情を話すと、彼はこころよくセシルたちに同行してくれることになった。武闘派国家ファブールのモンク僧長を務めるだけあり、腕力にかけては申し分ない、心強い仲間だ。

王！　バロン国の人たちが、クリスタルを奪いに攻め込んでくるらしいのですが」ヤンを軸として、ファブール国は迎撃態勢に入った。そして、セシルの思ったとおり、赤い翼が攻め入ってきたのだった。

敵を、断じてクリスタルルームまで通すなー！」セシル、ギルバート、ヤンの３人は、敵との攻防に継ぐ攻防で、心身ともに疲れはてる。最終的に、クリスタルルームまで追い込まれてしまうのだが、そこに現れたのはゴルベーザと、実に意外な人物だった。いかにセシルといえども、百戦錬磨のゴルベーザの前では赤子同然。とどめを刺されはしなかったものの、クリスタルとともに、いとしのローザをさらわれてしまった……。リディアが無事だったのが、唯一の救いだ。

どうにかして、バロン国に侵入したいのだが？」「そういうことなら、王に相談してみよう」「よし、飛空挺を手に入れるとするか」残った４人は、討論のすえ、ファブール王に船を貸してくれるようお願いした。結果、バロン国へ向かって旅立つことができたのだった。しかし……。

そうだ！　思い出したぞ。途中で船が難破して……リディア！　ギルバート！　ヤン！」しかし、セシルの声は虚しく、あたりに響き渡るだけだった。「独りぼっちか……。しかし、こんなところでモタモタしていてもしょうがない。とにかく、町を捜さなきゃ！」



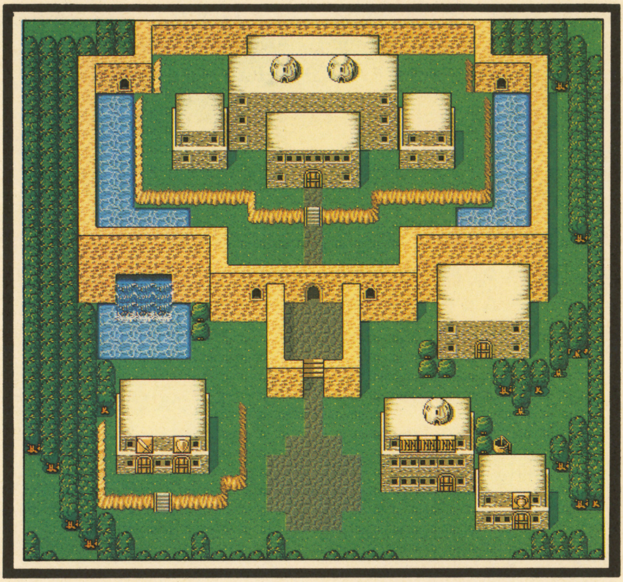
1人になったセシルは何を想う……？

ミシディア王国

魔法文化の中心となる国

賢者ミンウによって治(おさ)められている、住人の大部分が魔導師の魔法国家だ。

今回の攻略は、ここミシディアがスタート地点となる。オープニングでも出てきた町だ。



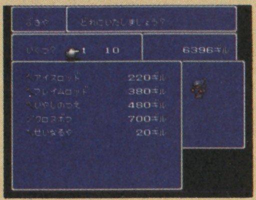
人々の様子は？

当然といえば当然なのだが、町の人たちのセシルに対する反応は非常に冷たい。改めて自分のやったことの重大さが、身に染み渡るセシル。魔法で姿を変えられたりして、迫害(はくがい)を受けるのだが、罪の償(つぐな)いとしてはなまやさしいほうだろう。赤い翼はもっとひどいことをしたのだから……。

ここはとにかく、長老に許しをこうしかないだろう。

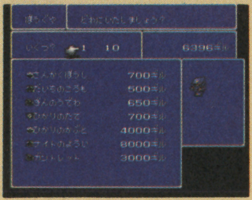
❶武器屋

この後、仲間となるパロムとポロム用の武器ばかりだ。なかでも、癒(いや)しの杖は使い応(ごた)えがある。戦闘中に使用すると、ケアルの効果を発揮する。ポロム用に購入しておこう。



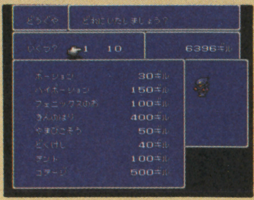
❷防具屋

下の４品は、将来的には必要になるが、セシルが暗黒騎士である以上、購入の必要はない。ほかの防具に関しては、武器と同じく、パロムとポロム用に買うべき品だ。



❸道具屋

次に行くべき試練の山には、特殊攻撃を仕掛けてくる敵はほとんど現れない。それゆえに、回復アイテムを買っておく必要はあまりないだろう。せいぜい、テントぐらいだろうか。

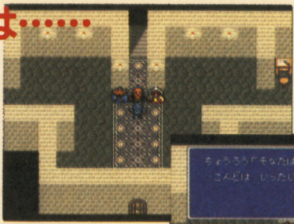


長老ミンウがいうには……

セシルは、このあいだの襲撃(しゅうげき)が自分の本心によるものではなく、バロン王の悪だくみによるものだということを、長老であるミンウに弁明した。その結果、ミシディアの東方に位置する、試練の山に旅立つこととなったのだ。「試練の山で、お前の身のうえに重要なことが起こるだろう……」という、ミンウの言葉を信じて。

「無事試練の山から戻ってくることができれば、なんとか協力してくれるだろう」

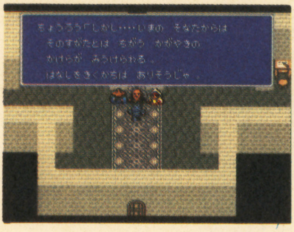
セシルは、自分の力が試練に耐(た)えられるのか、試してみることにした。どのみち、これをクリアできないようでは、ゴルベーザを倒すことなど夢のまた夢だろうから。そうすると、ローザを救うことも……。



ミシディアの中心にそびえ立つ、壮大な建物のなかで、ミンウはセシルがくることを予期していたかのように立っている。そして……。

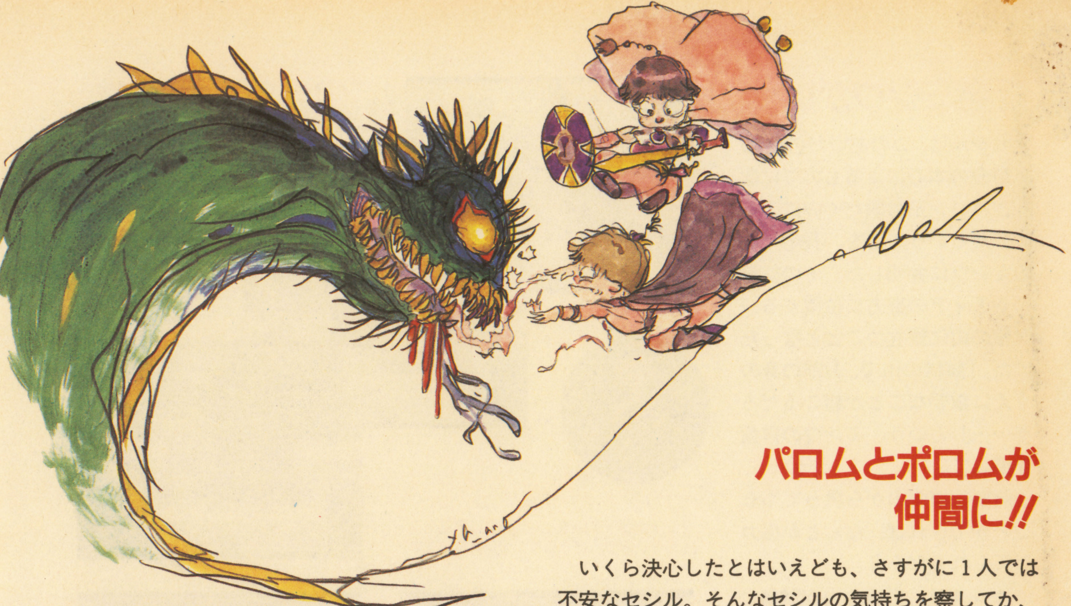
みんながセシルのことを無視するなか、ミンウはそれなりの対応をしてくれる。どうすれば、信用してもらえるのだろう。

セシルが困っていると、ミンウは意外なことを言い出す。どうやら、悪い人ではなさそうだな。



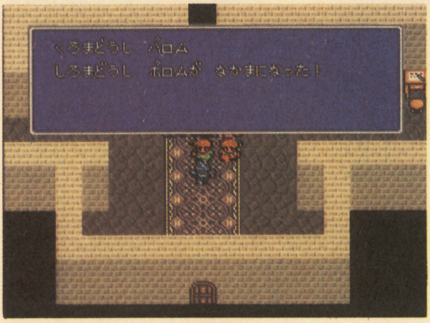
ミシディア年譜

年代	出来事
約500年前	漁獲船(ぎょかくせん)が嵐により漂着。船長をその長とする漁村を形成。
	2年連続で津波の被害を受ける。厳しい自然を生き抜く必要性により精神修養が始まる。
	船長の子孫「アブサロム」が精神修養のはて、高波を凍らせる魔法“ブリザド”を修得。魔導師国への国家形成期に入る。
	“ファイア”完成。続いて“サンダー”完成。俗にいう、三大黒魔法系の確立。この頃になると、魔法開発のための修養という色が濃くなる。
約200年前	後に愚魔王と呼ばれた「エイコブ」の“サンダラ”誤用により、村の三分の一を消失。賢者「ミンウ」がすべての魔法を封印。同時に試練の山の入口に結界。
約150年前	大津波来襲の際、突如として「ミンウ」の声が響き、津波を鎮(しず)める。これより後、多くの者に対して危機的状況によって「ミンウ」の声が啓示を与える。
	魔法復活。極初期的精神修養方法の研究が始まる。



パロムとポロムが仲間に!!

いくら決心したとはいえども、さすがに1人では不安なセシル。そんなセシルの気持ちを察してか、ミンウは実に心強い味方をセシルにつけてくれた。「私は白魔導師のポロム。あっちにいるのが、黒魔導師のパロム。セシルさん、どうかよろしくお願いしますね」2人ともまだ修行中の身らしいのだが、魔法をまったく扱えないセシルにとっては、何よりも強い味方だ。後で、この2人はセシルの監視役（かんし）だったということがわかるのだが、セシルはそんなことを考えもしなかった。いや、そんなことは、セシルにとってはどうでもいいことなのだ。ゴルベーザを倒し、ローザを救うという目的がある限りは……。



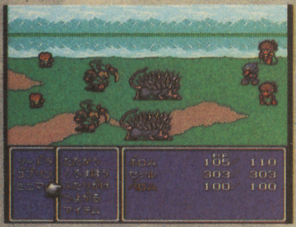
3人いれば怖くない

というワケで、セシルは3人で試練の山に向け、旅立つこととなった。「仲間がいると、こんなにも戦いが楽だとは」セシルは改めて、「人間、やはり1人では生きられないものなのか、仲間とは実にありがたい存在だ」と痛感してしまった。それだけに、そんなありがたい仲間たちと別れる要因となったゴルベーザを、許すわけにはいかない。「パロム、ポロムとともに、一刻も早く試練の山の山頂へ辿（たど）り着いてみせる!」と、固く心に決めたセシルであった。

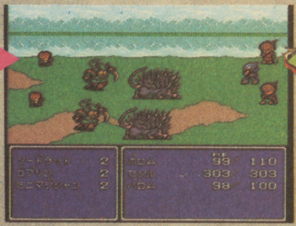
白魔導師ポロム

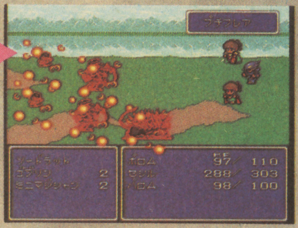
何事にも動じない心。一点の曇りもない、汚(けが)れなき精神。その2つの要素をパワーとして発揮する魔導師。それらの人々を総括(そうかつ)して、白魔導師という名がつけられている。白魔法を使いこなすには、精神力を鍛(きた)えなくてはいけないのだが、生まれもって強尽(きょうじん)な精神力を身につけているものもいる。白魔導師ポロムは、そんななかの1人。生まれながらの白魔導師だ。

彼女の能力はまったくの未知数。これはパロムについてもいえることなのだが、大の大人が何年もかけて修得する魔法を、成長するにつれて憶(おぼ)えていってしまうのだ。その姿は、さながら古代の魔導師のようで、両親は長老に師事させることを決めたのだ。まだ5歳という子供だが、その力をあなどることはできない。白魔導師といえども、ホプス山の試練ではかなり頼りになるだろう。



パロムとポロムには、"ふたりがけ"というコマンドが用意されている。使用することにより……。





"プチメテオ"、"プチフレア"。このどちらかを、敵に向けて発射。小型とはいえども、大打撃を与える。

黒魔導師パロム

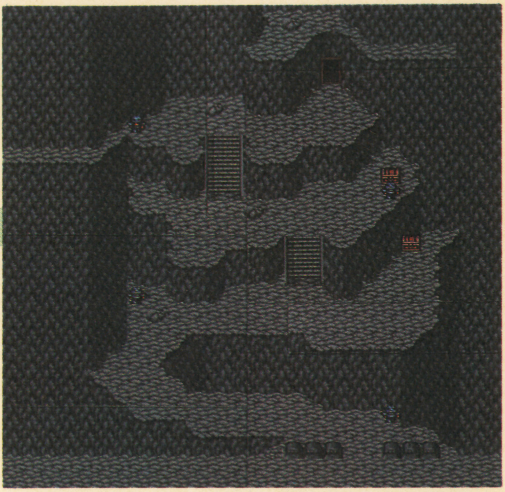
ポロムと時を同じくして生まれた、いたずら盛りの元気な男の子。現在はポロムとともに、長老の元で修行中の身だ。

黒魔導師とは、ありあまる知性、ひとかどならぬ技能など使い、元素変化を基本に敵を殺傷(さっしょう)する魔法、黒魔法を扱うことのできる人たちの総称だ。パロムは、実にポロムと相対的であり、黒魔導師としての能力に長(た)けてる。

試練の山に入り込むには、彼の能力に頼らなくてはいけない。普段は、長老相手にイタズラばかりして、まわりの人たちにヒンシュクをかっているが、実戦となると底知れぬ力を発揮する。セシルのことをどうやら気に入ってるようだし、兄弟だけあってポロムとは名(迷)コンビだ。戦いが進むにつれ、成長の度合いも早いぞ。

試練の山

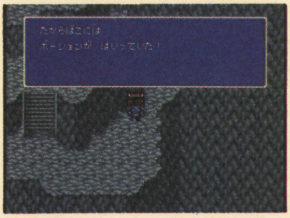
セシルの身のうえに重大な出来事が！



各キャラクターの装備を整えたら、この試練の山に足をのばそう。場所は、ミシディアの東。迷ったりしたときには、サイトロを唱えて場所を確認することだ。南のほうにはチョコボの森があったりするので、立ち寄ってMP回復をしていこう。

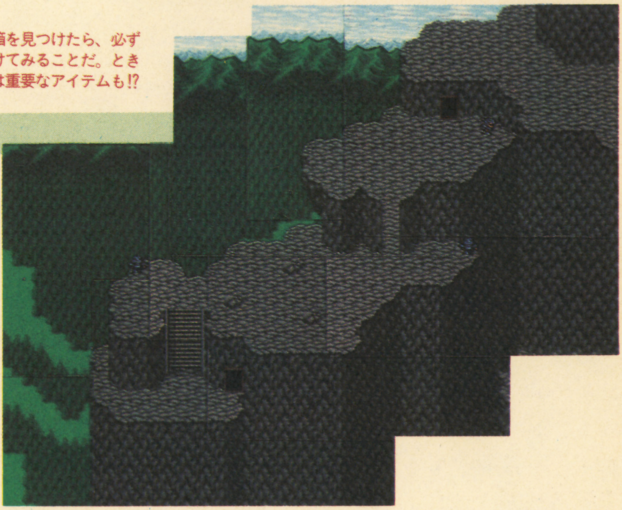
試練の山 入口

入口ではちょっとしたイベントが起きるが、それほど気にすることはない。ほかにも、とくに気をつけることはないので、サクサク先に進むことだ。



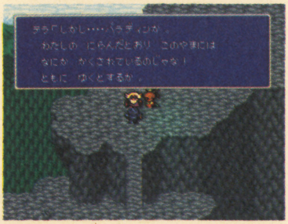
宝箱を見つけたら、必ず開けてみることだ。ときには重要なアイテムも⁉

試練の山 3合目



ここでは、意外な人物に出会うことになる。ダムシアン城で別れてしまった、賢者テラだ。パロムとポロムは、テラの名前をみんなに聞いて知っていたらしく、ひとしきり挨拶（あいさつ）が終わった後、またいっしょに旅することとなった。

テラが仲間に‼

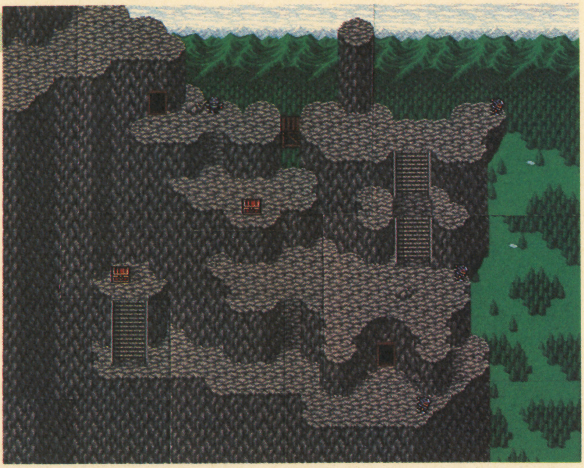


テラのいうところによると、この試練の山に最強の黒魔法、メテオが隠されているらしいのだ。いまでは、誰も扱うことができず、たまに噂に昇るだけ。

しかし、もし見つけることができれば、打倒ゴルベーザに一歩近づく。新たな目的をみつけ、セシルたちの意気が上がることだろう。

試練の山 7合目

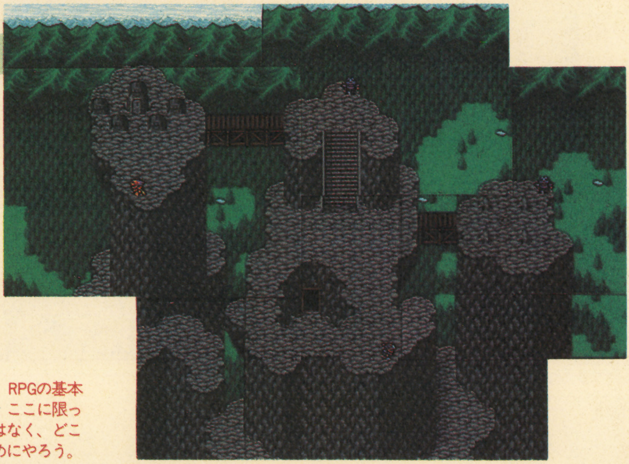
ここを登りきれば、いよいよ山頂へとたどり着く。敵も少しずつ強くなってきて、自然と緊張感が高まっていくのがわかるだろう。宝箱に入っているエーテルをしっかり集め、足どり確かに進もう。別にあせることはないのだから。

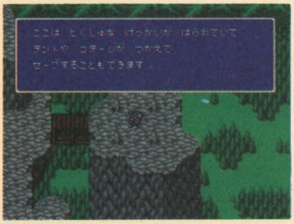


エーテルをもっていれば、いざというとき便利。

山頂

最上部のほうに橋が見えるが、いく前に1つやっておくべきことがある。それは、いわずとしれたセーブ。この先、何が起きるのか、未知なる世界だからね。





セーブは、RPGの基本中の基本。ここに限ったことではなく、どこでもこまめにやろう。

彼の精神状況はいま、とても危険な状態にある。頭のなかは、娘を殺したゴルベーザに対する復讐の念で埋め尽くされているのだ。そんなときに、ただでさえ危険な魔法を扱うのは、自殺行為に等しいものがある。しかし、セシルには彼を止めることはできない。ローザをさらわれたいまとなっては、彼の気持ちが痛いほどよくわかっていたから……。

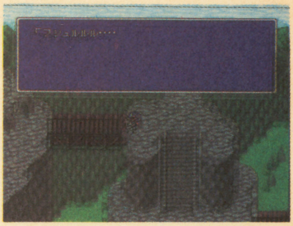
"思い出す"コマンドは、たまにこのような強い魔法を唱える。

賢者テラ

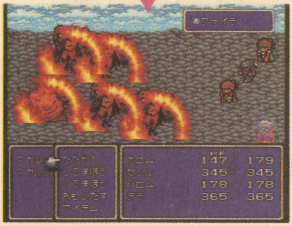
スカルミリョーネとの戦い

セシルたちが橋を渡ろうとすると、ゴルベーザ四天王の１人、土のスカルミリョーネが眼前に立ちはだかる。どうやら、ヤツを倒さなくては、先に進ませてもらえないらしい。

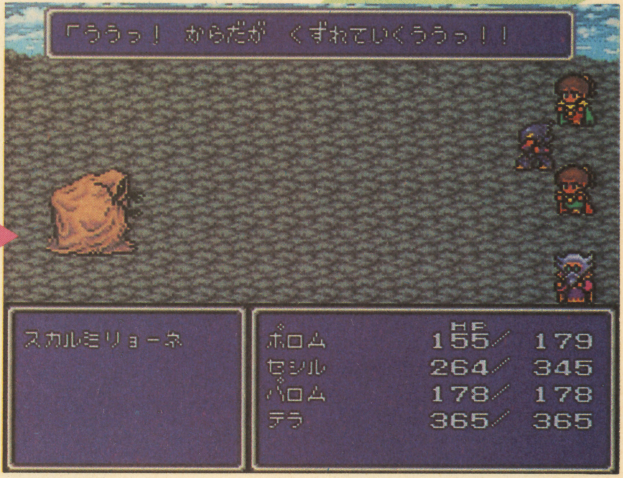
スカルミリョーネたちは、基本的にはアンデット系のモンスター。ゆえに、火に対して弱い。パロムとテラの黒魔法を駆使し、戦いを有利に進めよう。思ったほど苦労しないで勝てるはずだ。そして、見事倒すことができたら、橋を渡りきる前にいったんセーブしておくことだ。



勝利!?



MPの続く限り、ファイア・ファイラをかけまくること。



勝ったからといって安心してはいけない。急いでセーブをしに戻ろう。

人間がさりげなく地面に捨てる、さまざまな科学廃棄物。地面に埋もれていった、邪悪な精神をもつ者たちの魂。ほかにも挙げればキリがないが、土のなかというのは暗黒の物質が渦巻いているもの。ゴルベーザはそんな土に目をつけ、四天王の１人を生み出すに至った。体には崩れかけている死者を混ぜ合わせたもの、精神は土のなかに含まれる、邪悪な意識だけを取り出したものを使って……。結果、誕生したのが、この土のスカルミリョーネというワケなのだ。邪悪なことにかけては、ゴルベーザにもひけをとらない……。

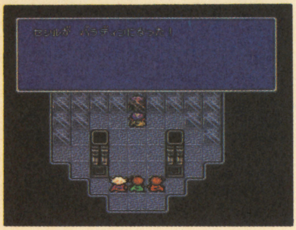
唯一ゴルベーザの計算外だったのは、邪悪になればなるほど、悪を浄化する力をもつ火炎には弱いということだった。

土のスカルミリョーネ

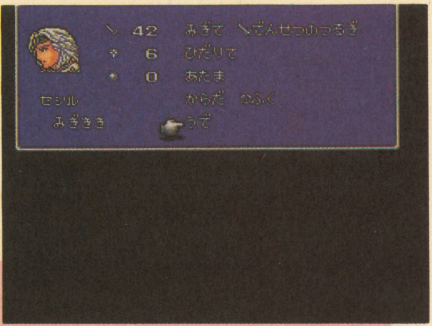
パラディンとなったセシル

スカルミリョーネを完全に倒すことができたら、その先の部屋のなかであるイベントが起きる。そしてセシルは、暗黒騎士からパラディンへと変貌（へんぼう）を遂（と）げるのだ。

急いでミシディアへ戻るのもいいが、その前にパラディンとなってどのような変化があるのか、チェックしてみるのもいいかもしれない。

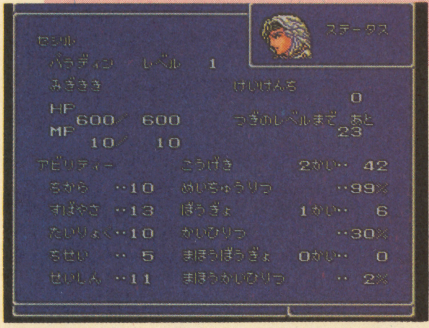


ミンウが言っていたのは、このことだったのか……。



暗黒騎士の装備がすべて失われるかわりに、伝説の剣と言われる聖剣が手に入る。鎧が服になってしまったのは悲しいが、ミシディアで買い揃えれば問題はない。

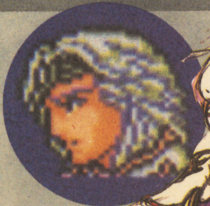
装備が違う!! ステータスも違う!!



"精神"が、暗黒騎士のときと比べると格段に上がっている。以外の特性値は、全体的に下がってしまっている。しかし、レベルはまだ1。これからドンドン上昇していくだろう。なんといっても決定的に違うのは、魔法（白魔法）が使えるようになったことだろう。

パラディン・セシル

パラディン、つまり聖騎士となることができたのは、世界広しといえどもセシルしかいない。暗黒剣とは対象的存在の武器、聖剣を扱うことのできる、唯一のキャラクターだ。聖剣は店で購入することはできないが、まれに迷宮の奥深くに見つけることができる。邪悪なるものたちに対して、絶大な威力を発揮することができるそうだ。



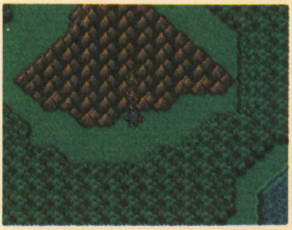
パラディンの取柄（とりえ）は、攻撃に関することだけではない。ほかにも、白魔法を扱えるという利点がある。最初のうちはケアルしか唱えることができないが、レベルが上がるにつれて少しずつ覚えていく。

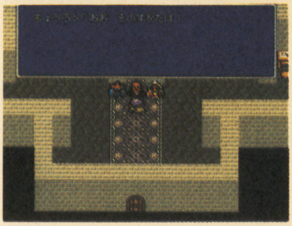
パラディンの特殊コマンド、"かばう"。文字通り、他の仲間を敵からかばうんだ。

弱っているキャラがいた場合、コマンドを選ばなくても自動的にかばう。

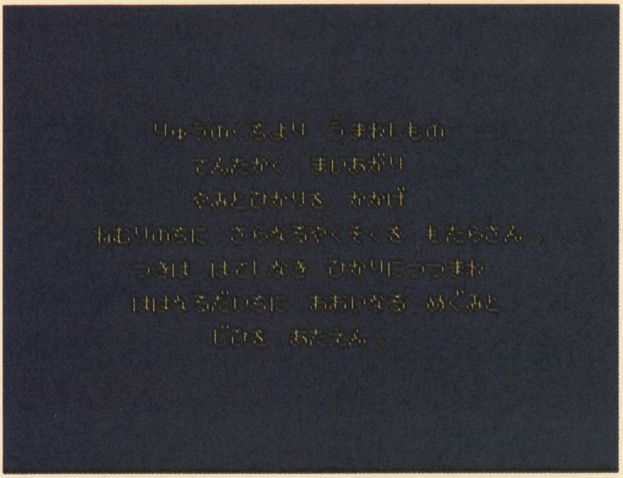
パラディンになったセシルを待つものは？

パラディンになったセシルはほかのみんなとともにミシディアへ帰っていく。先ほどの謎の声を思い出しながら……。
「その姿は!! そうか、パラディンとなったのか。これなら信用してもいいだろう」ミンウはそんなことを考えながら、意気揚々と帰ってきたセシルたちを、暖かく出迎えた。そのなかにテラの姿を見かけると内心驚いたが……。
「おや、その腰に下げている剣はどうしたんだ？」「いや、パラディンになったときに、気づいたら手にしてたんです」「ちょっと見せてもらえないか？」よく見ると、剣に何やら言葉が彫り込んである。ミンウがいうところによると、古からミシディアに伝わる言い伝えと、まったく同じ文章らしい。





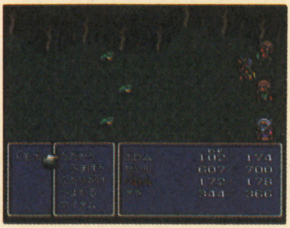
ミンウに信用してもらえたらしく、セシルはパロム、ポロム、テラとともにバロン国へ出発する許可をもらえた。はたして、バロン国には何が待ち受けているのか。



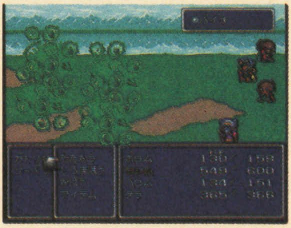
テラが思い出した魔法とは？

セシルがパラディンになったのと同時に、テラが忘れていた魔法を思い出した。最強の黒魔法、メテオも含めて。
"思い出す"コマンドはなくなってしまうが、あってもいまのテラには関係ない。それでは、思い出した魔法の一部を見てみることにしよう。

レビテト。空中浮遊の白魔法である。どんなことに使用するかというと、敵のクエイクの守備魔法である。ほかにも使い道が!?



トード。かけられた者を、カエルの姿にしてしまう、悲しい？ 魔法なのだ。カエルの状態だと、攻撃・防御力ともに最低値。



バイオ。ファイア、ブリザド、サンダー、どれにも属さない攻撃魔法。消費MPは高いが、それだけの強さを誇るのだ。

パラディンになると様々なメリットが!!

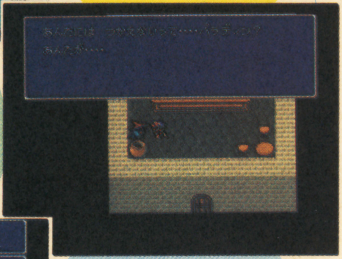
セシルがパラディンになったことにより、いままで冷たかった町の人の反応が、それぞれ違ってくる。大部分の人は、実際にその目で見ても、セシルがパラディンになったのが信じられないみたいだ。

最大のメリットは、なんといっても装備できる武器、防具が大幅に増えること。暗黒騎士である限りは、暗黒系のものしか装備できなかったからね。ここ、ミシディアの防具屋では、さっそくパラディン用の防具を購入することができるし。

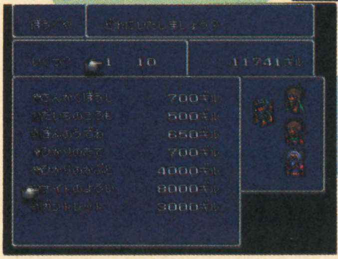
もう1つ、重大な変化がある。パラディンになり、ミンウに許しをもらうのと同時に、バロン国へと通じるデビルロードを使用できるようになることだ。この状況にならないと、セシルはいつまでたっても、バロン国へ侵入することができやしない。セシル自身の精神も、少しずつ上昇していくようだし、改めてパラディンのスゴサがわかる。

あれだけセシルのことを馬鹿にしていた町の人が、いまではこのように。信じられない気持ちはわかるけどね。

パラディンになった、という事実を認めてくれる、理解ある人もなかにはいる。言われたとおり常に高尚な精神を保とう。

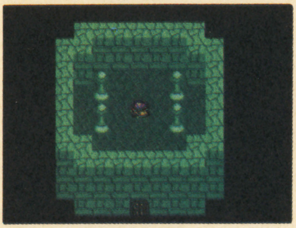


暗黒騎士の頃、防具屋のなかで「お前にはここの防具は着れないよ!!」と馬鹿にされたセシル。しかしいまとなっては、その人もこの調子だ。

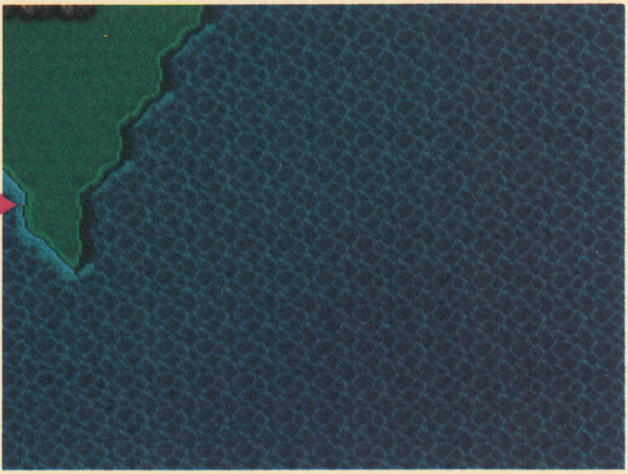


光の盾、光の兜、ナイトの鎧、ガントレットの4種類は、パラディン専用の防具となる。すべて買い揃えることだ。

デビルロードを使って バロンへ侵入だ!!



中心の白い円状の部分に立とう。すると、あたりが輝いて……!?



異次元空間を通り、バロン国へ自動的に移動していくんだ。

バロン城へ侵入したいのだが……？

デビルロードを使い、バロンの町に着いたのはいいが、バロン城に入ることができない。どうやら、正面から侵入するのは、不可能といっても過言ではないようだ。すぐ目の前に入口が見えるというのに、指をくわえて見てるしかないのだろうか……。さしあたって、セシルは町の人々に城の様子を聞き出すことにした。ついでに、近場のチョコボの森まで足を延ばし、不要なアイテムを預(あず)けておくのもいいかナ!?

バロン国外観図

町の人たちの様子が何かおかしい

町の人たちに話を聞いてみたところ、最近になってバロン王の不評が後を絶たないらしい。兵士たちまでがはばをきかせ、好き放題やっているという。「いまそこの酒場で、新しく兵となったらしいヤツが、酒を飲みながら暴れているよ」こんな話を聞いたセシルは、酒場に顔を出し、そいつの顔を見てみた。

？　シドがいったいどうしたというのだ。まさか王に捕えられて……!?

セシルと同一の意見をもっている人もいた。何か嫌な予感がする。ひょっとして、バロン王はすでに!?

あ、あの人は!?

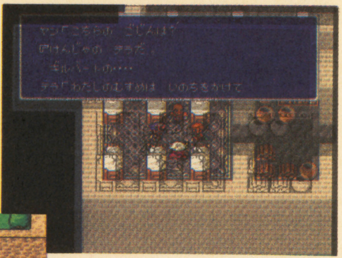
どんなヤツかと思い、セシルが顔を見に行くと……？　彼がなぜ、こんなところでバロンの兵士を相手に酒を!?

さっそく事情を問い正してみよう。すると!?

何かヤンの様子がおかしい。いったいどうしたというのだ……。

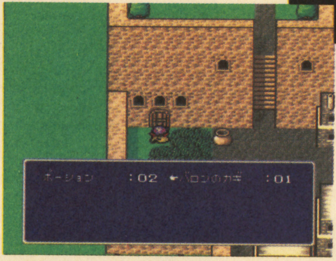
ヤンが仲間に!!

いろいろと問題が起きたが、結果的にヤンが改めてセシルの仲間となってくれた。しかも、バロンの鍵というお土産(みやげ)つきで。これを使えば、バロン城へと続いている、いまは使用されていない地下水路へ入り込むことができる。それに、いままで鍵がかかっていた、武器・防具屋に入ることもできるのだ。ここで、ぜひともヤンに買っておきたいのは、雷の爪というヤン専用の武器。地下水路で出現する敵は、大部分が水棲系のヤツなので、雷の爪が有効となる。同様の理由で、テラやパロム用に、サンダーロッドを購入しておくべきだろう。



宿屋で作戦会議がてら、互いの紹介をすます人たちの図。その後、会議の内容によると……？

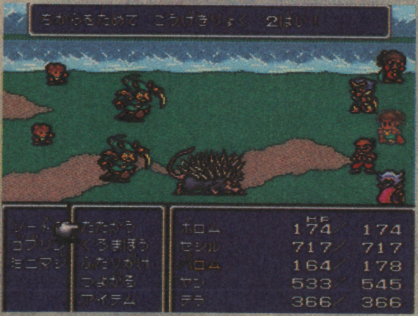
まあ、正直に戻ったということで、昔のことには目をつむろう？　心強い味方には違いないからね。



ヤンの持っていたバロンの鍵を、この扉の前で使おう。なかに入ることができ、そのまま地下水路へと侵入できる。

モンク僧ヤン

ファブールモンク僧兵隊の隊長を務めている、質実剛健の男。セシルといっしょに旅していたのだが、とある事故のために離ればなれになっていた。魔法を唱えることはできなくとも、それを上まわる攻撃力と防御力をもっている、心強い味方の1人だ。



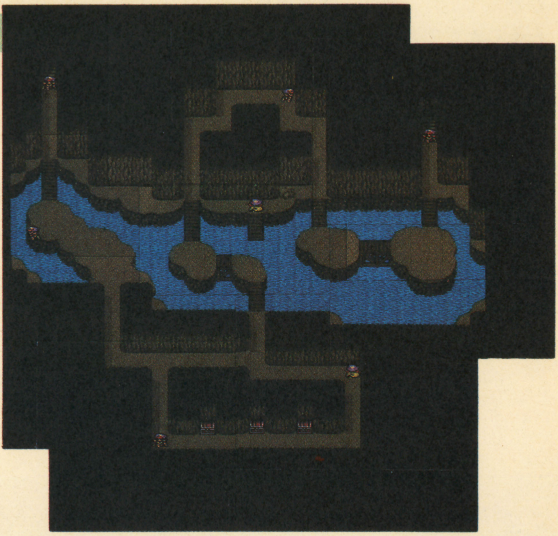
“溜める”コマンドは、イザというときに使用すると、非常に頼もしいコマンド。対ボスキャラ戦などに、うまく活用しよう。

バロン城・地下水脈

城の地下に隠された迷宮

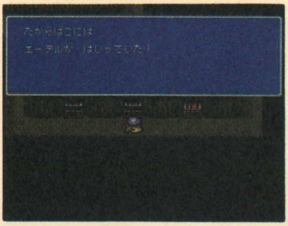
セシルたちが予想だにしなかった、バロン城の真下に位置する迷宮。元はただの地下水路だったのが、使用中止になった後、いつの頃からか魔物が住みついていた。強い敵ばかりで、パラディンになったばかりのセシルにはツラい戦いが続くが、一刻も早くローザを救うためには仕方がないことだ。４フロアしかないので、慎重(しんちょう)に進めばなんとかなるだろう。

昔の水路

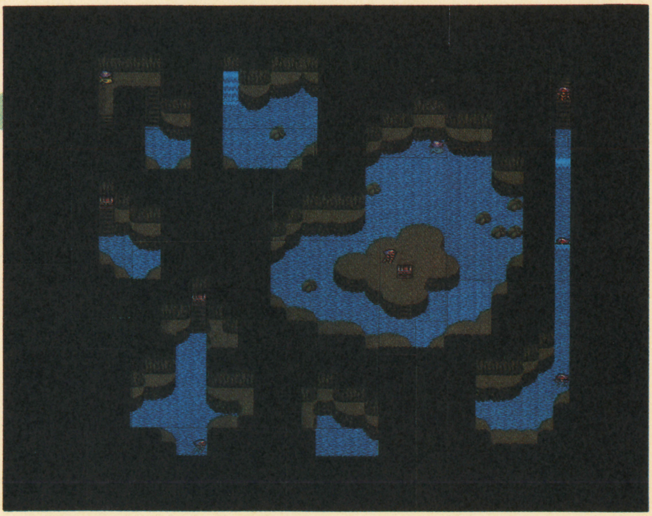


ほとんど一本道で、迷う心配はない。下部にある３つの宝箱をすべて開け、アイテムを確実に手に入れてから先へ進もう。

このあたりで出てくる敵は、一部を除いて水棲系の敵ばかり。ということは、サンダー系の魔法が有効ということだ。パロムやテラにドンドン活躍してもらおう。セシルのパラディンとしてのレベルを多少上げておくのもよい。



地下3F



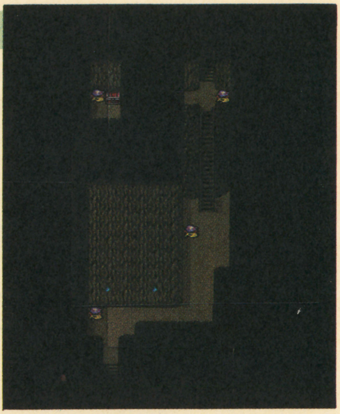
FFシリーズではお馴染みの、通り抜けることのできる壁がアチコチに設置されている。はじめのうちは、きっと戸惑(とまど)うことだろう。そのため、マップをよく見ながら、セシルの位置関係を正確に把握(はあく)しておくことが必要となる。

３つの宝箱があるが、中身は戦闘時用アイテムばかり。無理して取る必要なし。

地下2F

妙に狭く、怪しい雰囲気のするフロア。宝箱も１つポツンとあるだけで、あとは行き帰りの階段があるだけ。イヤでも緊張感が高まっていく……。

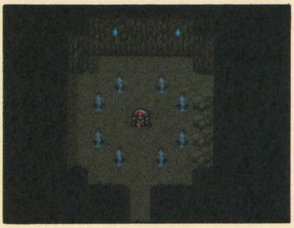
１つ気になることがある。それは、本当は味方だったはずのバロン兵たちが、敵として襲いかかってくること。しかも、全体的にパワーアップしているらしい。いったい、なぜ……？

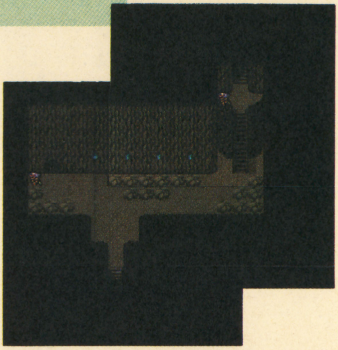


地下１F

ここを抜けると、いよいよバロン城へたどり着く。はたして、ゴルベーザと出会うことが、ローザを救うことができるのだろうか？

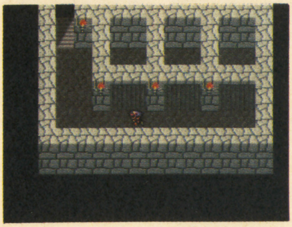
扉のなかには、セーブポイントが設置されている。テントを使って体力回復を図り、同時にセーブを行うことだ。ほら、すぐそこまで、邪悪な気配が漂ってくる……。





地下水路を抜けた先にセシルは何を見る？

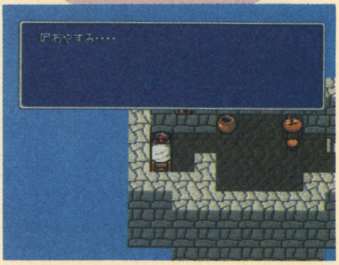
「？　何か城の様子がおかしいぞ」それもそのはず、人の姿がどこにも見えないのだ。飛空挺団の部屋にいるはずのセシルの部下たち。牢屋に閉じ込められていた、ミシディアの魔導師たち……。しかも、さっきから何者かの視線を、痛いほど感じるセシルたち。とりあえずみんなでセシルの部屋へ行き、体調をベストに戻しておくのが良策だろう。



牢屋は、見てのとおりもぬけのカラ。囚人どころか、見張りまでいなくなっている。いったいどうしたんだろうか？

あれほど賑わっていた飛空挺団の部屋が、いまや１人もいなくなっている。元上司のセシルは知らず知らずのうちに気落ちする。

自分の部屋で休もう!!

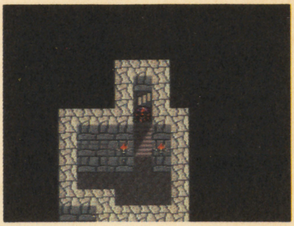


始めは行けなかったところに何がある!?

バロン王の間へ行こうとすると、敵の襲撃を受けるセシルたち。みんなの力を合わせ、なんとか生き延びるが。

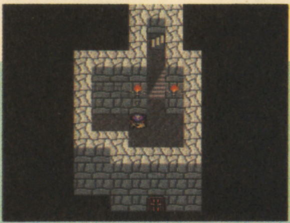
人がいなくなっているということは、いままで立ち入らせてもらえなかったところが入れるようになっているはず!! そう思ったセシルたちは、実際に行ってみることにした。宝物殿、謎の塔の2カ所に……。

宝物殿（ほうもつでん）には、その名前の示すとおり宝があった。それよりも不思議なのは、塔の方。階上には宝箱があり、とくに怪しいところはないのだが、問題は地下の部屋。「ここは確か、あのお方の部屋だったと思うが……」

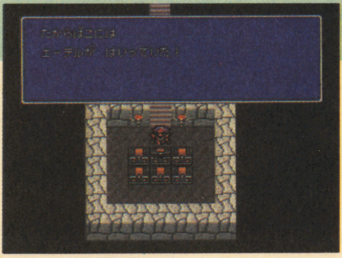


やはり、ここにも人がいなくなっている。いったい、この先に何が隠されているのか？

宝物殿



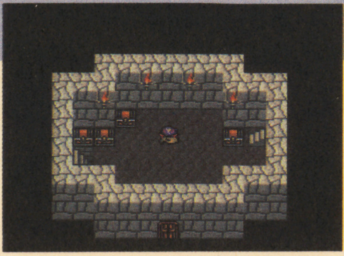
この灯りが隠しスイッチとなっている。なかに何があるのか興味津々だね。



お宝がドッサリ。全部取っても、バチはあたるまい。

謎の塔

先ほどは、扉の前に兵士が陣取っていて、なかに入れてもらえなかったのだが。



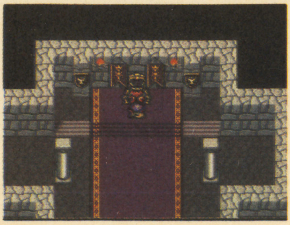
階下で起きたことは、メモでもして必ず覚えておくことだ。

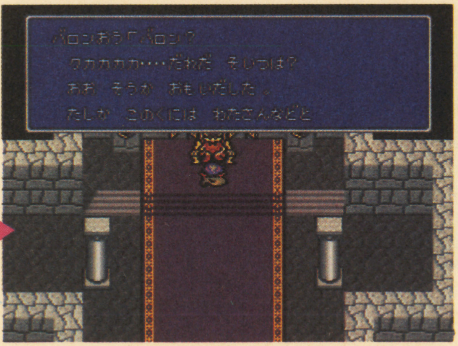
バロン王の様子がおかしい!?

バロン城を思う存分検分したセシルたち。最後に、どこにも姿が見えなかった、バロン王の間へと足を向けた。するとなぜか、バロン王が1人でポツンと王座に座っているではないか。

「バロン王」「セシルか。その姿は!? そうか、パラディンになったのか。しかしいかんぞ、パラディンなどになっては……」

なんと!? いままでセシルがバロン王と思って接していたのは、巧妙にすり替わったにせ者!!





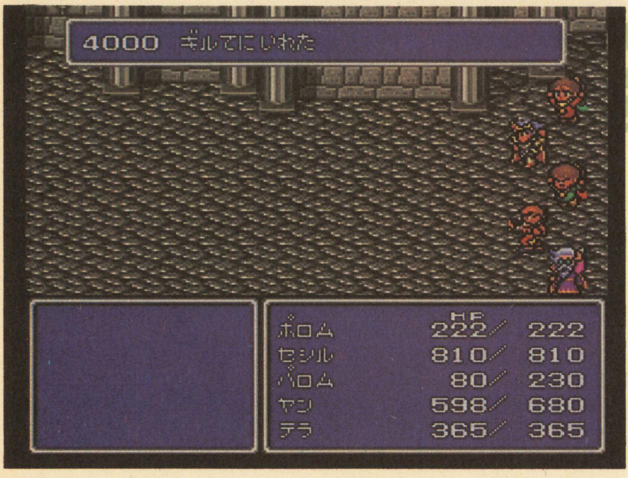
すでに、セシルのことを可愛がってくれてたバロン王は、亡き者となっていた!!

カイナッツオとの戦い

バロン王に化けていたのは、ゴルベーザ四天王の１人、水のカイナッツオだった。しかも、セシルたちのことを待ち受けていたのだ。殺すために……。「許さん、カイナッツオ!!」バロン王にはありあまるほどの恩があるセシル。これで、バロン王に対するいままでの疑惑も解けたし、あとは戦うだけだ!!

これで２人目となる、ゴルベーザ四天王の一員。水を自在に操ることができる、水棲モンスターだ。ということは……。

やはり、サンダー系の魔法が効くぞ!! 逆に、サンダー系の魔法をかけないと、水のバリアを壊すことはできない。



セシルたちの勝利!!

水棲生物のため、カイナッツオはサンダー系の魔法に弱い。さらに、ヤンの雷の爪での攻撃も有効だ。あとは、ポロムに毎ターンごとにケアルラでもかけさせれば、意外とあっけなく倒せるはず。しかし、水のカイナッツオの恐ろしさを知るのは、倒したあとの話となる。

水のカイナッツオ

名も知られていないような、海の奥底でヒッソリと暮らしている甲虫生物。力などは弱く、甲羅の異常なまでの固さを除けば、ごくふつうの生物だ。

どこから知り得たのかはわからないが、ゴルベーザはその異常なまでの甲羅の固さに目をつけた。そして、ある日入手したその生物に、魔力を注ぎ込んだのだ。結果、水を自在に操ることのできる、水のカイナッツオが生まれた。

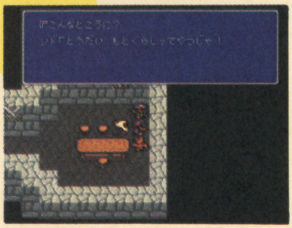
しかし、所詮は水棲生物。体の大部分、いたるところに水を含んでいるため、電動率がいい。

例に漏れず、カイナッツオもサンダー系の魔法に弱いといえる。これで残るは、２人の四天王と悪の元凶ゴルベーザ!!

シドが仲間に!! と同時に……

見事カイナッツオを倒したセシルたちの前に、見慣れた顔が立ちはだかる。技師シドだ。どうやら、カイナッツオによって、どこかに閉じ込められていたらしい。「俺のことをあんな狭いところに閉じ込めおって!!」相変わらず元気のいいこと。セシルは、このシドの明るさに、いままで何度救われたことか……。何はともあれ、無事だったのがありがたい。さっそく、セシルは飛空挺のことを相談すると、「このバロン城の地下に、密(ひそ)かに開発しておった飛空挺を隠してあるのじゃ」さすがシドだ。普段はいくらとぼけていても、やるときはやる!! というわけで、セシルたちは新型飛空挺・エンタープライズ号を手に入れたのである。

こ、これは!?



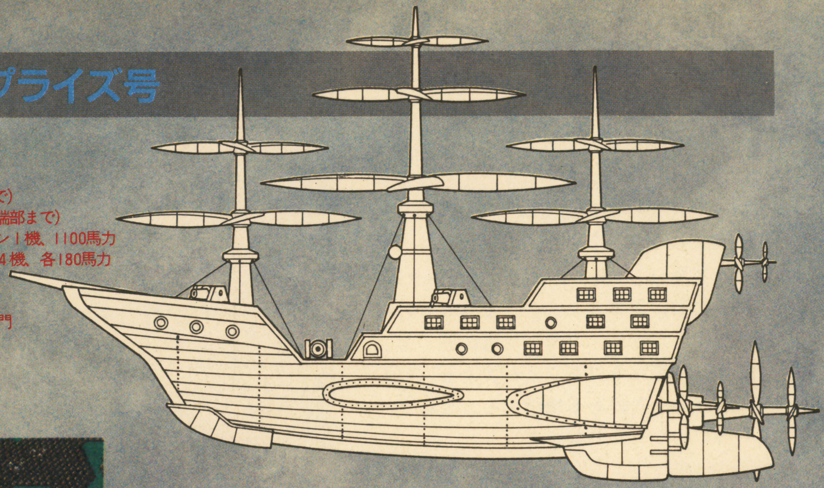
技師シド

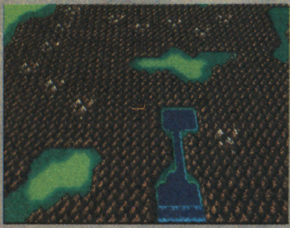
本来は戦闘員ではないのだが、セシルとともに戦いを決意してくれる。魔法などはまったく扱うことができないが、毎日修理に明け暮れていただけに、腕力が強い。使いなれた工具を武器とし、元気いっぱい戦うぞ。将来的には、技師としての腕前を、みんなに披露(ひろう)してくれることだろう。それは、いつの話かわからないが。

シドの特殊コマンド"見破る"。瞬時にして、敵のHPの状態と弱点を教えてくれるのだ。

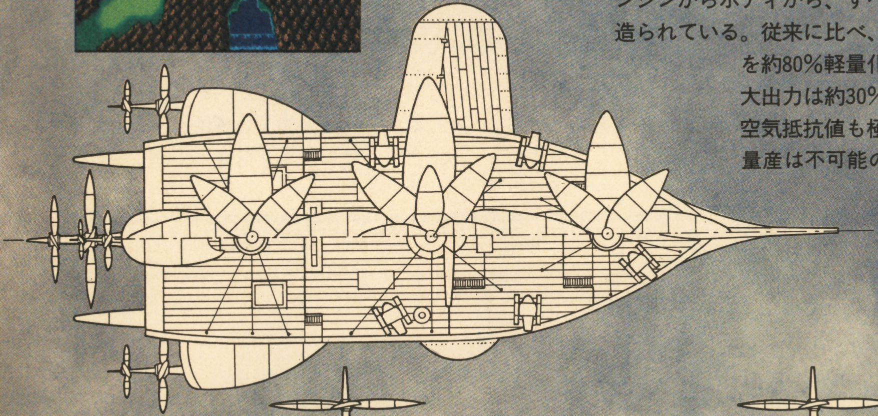
エンタープライズ号

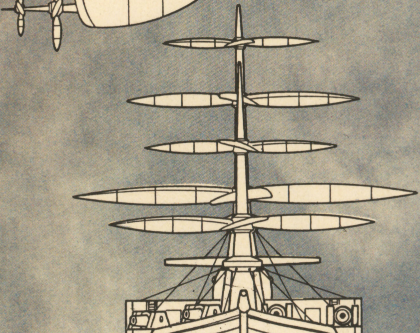
●全長：55.5m
●全幅：17m
●全高：８ｍ（甲板上部まで）
27m（プロペラ先端部まで）
●最高出力：メインエンジン１機、1100馬力
サブエンジン４機、各180馬力
●速力：毎時70ノット
●乗員：８名
●武器：空対地カノン砲12門

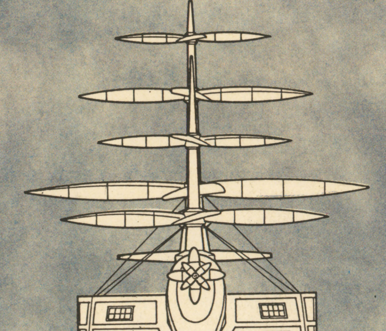




シドのもつ、すべての技術力を結集して造られた、世界に１台しかない新型飛空挺。エンジンからボディから、すべて新しい試みで造られている。従来に比べ、エンジンの質量を約80%軽量化。そのうえ、最大出力は約30%向上している。空気抵抗値も極限まで減少させ、量産は不可能の最新飛空挺だ!!



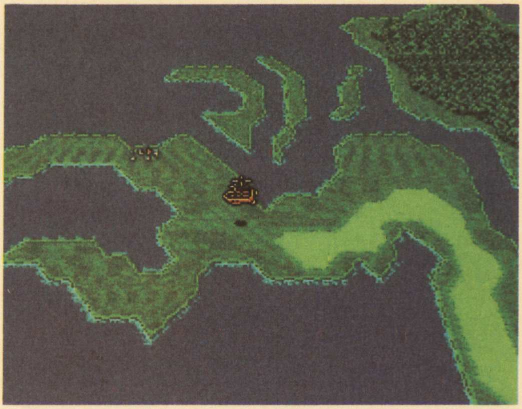




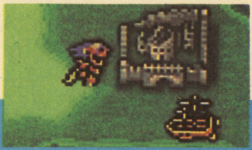
飛空挺に乗って世界巡り

飛空挺が手に入り、喜び勇んでいるセシルたちだが、ある出来事により、トロイアに行かざるを得なくなる。しかし、それは世界を見てからでも遅くはないだろう。

飛空挺が手に入り、新たに行けるようになった場所は、トロイア城、エブラーナ城、ミストの村、アガルトの村、ミスリルの町の5カ所。ほかにエブラーナ城の近くで、不思議な建造物を見ることができる。いままで行ったことのある場所でも、改めて行くのもいいかもしれないぞ



エブラーナ城



忍術の発達した軍事国……のはずだが!?

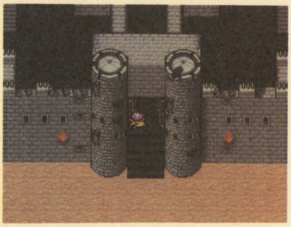
ほとんどほかの国と外交関係をもたない、一言でいうと人見知りをする国。

この国の人々には、大きな特徴が1つある。それは、みな忍術を扱うことのできる、忍者だということだ。そして、王族が代々忍者軍の頭領として、エブラーナ軍を指揮しているらしい。

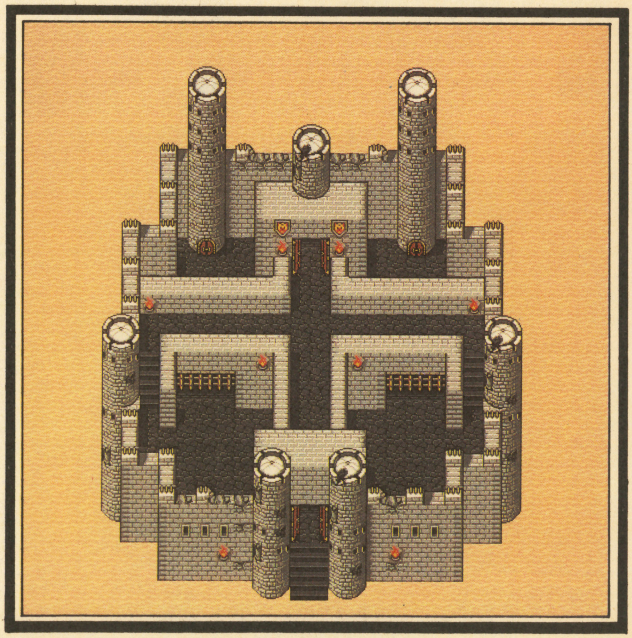
城の様子は……？

どうしたことなのか、人の姿が全然見あたらない。集団で隠れんぼをしているワケでもなさそうだし、何かしら複雑な事情のうえでのことなのだろう。はたして、ゴルベーザとの関連はあるのだろうか？

城の奥深くには、宝箱がいくつかある。うかつに開けると？



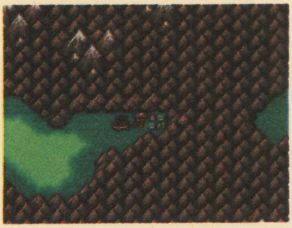
爆撃のあとがあるということは、ゴルベーザはここにも攻撃を仕掛けたのか!?

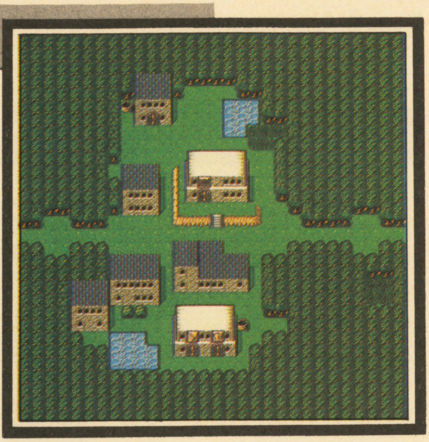


ミストの村

そもそも、セシルの旅の原因となった、とても静かな村。ところどころでボムのかけらを見つけることができるが、そのたびにセシルは胸を痛める。いったい、いつになったら召喚士リディアと再会できるのだろうか？

とりたてて、買う必要のあるものもない。とくに立ち寄る必要はないぞ。

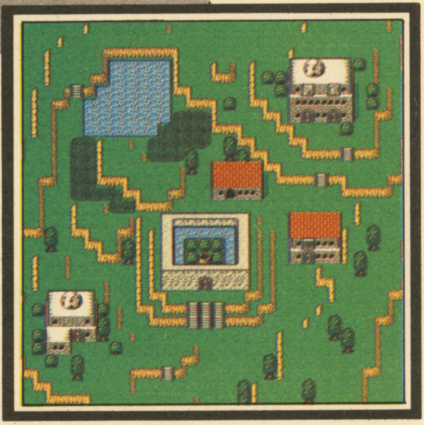




アガルトの村

ミスリルの町と同じく、離れ小島にポツンとある小さな村。この村の人たちは、自分たちをドワーフの末裔(まつえい)だというが、それは村の中央にある底なし井戸と、何か関係しているのだろうか？　どのみち、あとで来ることになりそうだ!?

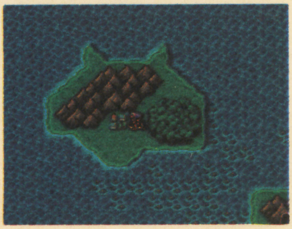
場所は、バロン国の南方。現時点では、訪ねてもあまり収穫がないだろう。

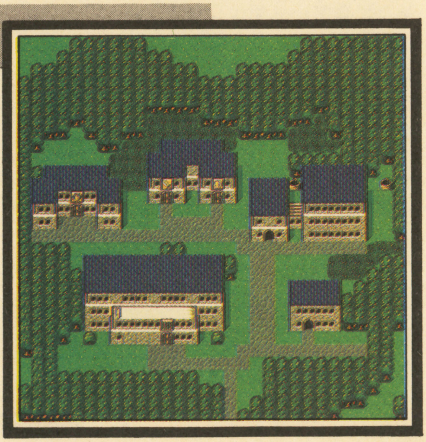


ミスリルの町

トロイア王国へ行く前に、ぜひ立ち寄りたい町だ。目的は、ミスリル製の武器、防具を買い揃えること。おそらく、現時点ではお金が足りないと思うが、敵を倒し続け、強引に稼(かせ)いで購入すべきだ。町なかでは、面白いダンスが!?

東にある洞窟が気になる。あそこへ行くためには、いったいどうすればいいのだろう？

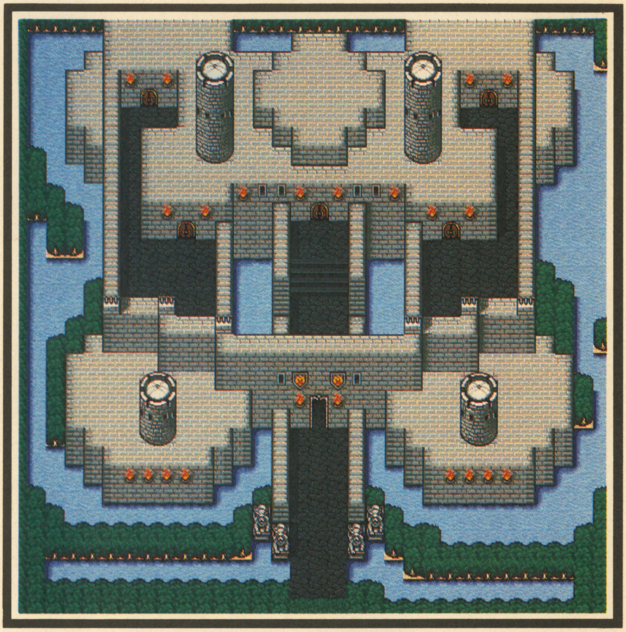




トロイア城

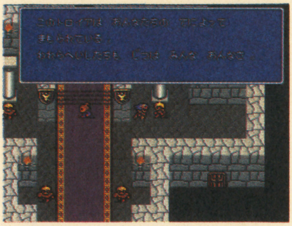
豊かな緑に囲まれた8人の女性が統べる国

バロン国の北西に位置している、代々女性しか生まれない、男たちにとってはパラダイスと化している国。チョコボの飼育に成功したことでも有名で、現在は新種のチョコボを育ててる。



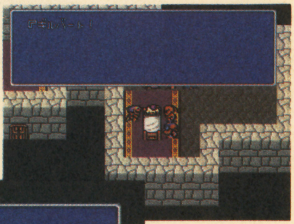
人々の様子は？

トロイア城のなかでは、ダークエルフとやらに盗まれてしまったクリスタルの話題でいっぱい。兵士がすべて女性というのも、何か妙な感じを受ける。とりあえず女性神官に会おう。



ギルバートが生きていた!!

城の一室に入ったセシルは、そこに寝ている男に見覚えがあった。「ギルバート!! 無事だったのか……本当によかった」セシルとはぐれてしまったギルバートは、運よくトロイアの人に助けられていたのだ。しかし、体の調子は最悪らしい。これではともに旅するのは無理だろう。「セシル。これを僕のかわりだと思って、持っていてくれ」と、セシルはひそひそうを手渡された。これは、後で非常に役に立つのだが……。まあ、とにかく、ギルバートが生きててよかった。



ギルバートは生きていた。しかし、リディアの行方はわからないという。どうか無事で生きているように……。

元々病弱な体に、事故まで重なってしまい、とても苦しそう。セシルの力になれないことも、かなりくやしそうだ。

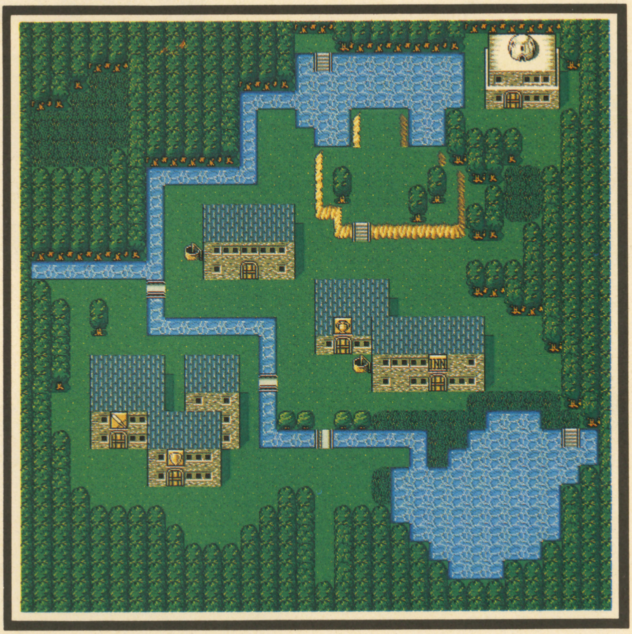
8人の女性神官たちによると……

セシルは女性神官たちに事情を話し、クリスタルを貸してくれるよう要請した。しかし、こともあろうに、クリスタルはダークエルフに盗まれてしまった後だった。首尾よく取り返すことができれば、セシルたちに貸してくれるというのだが。

とにかく、ダークエルフの存在がわかった以上、こんなところでグズグズしているヒマはない。ローザの命を助けるためなら、セシルは何度でも戦うつもりになっていた。たとえそれが、かつての親友であろうとも……。セシルの決心は固い!!

土のクリスタルが盗まれ、女性神官たちは途方にくれている。

トロイア城 城下町

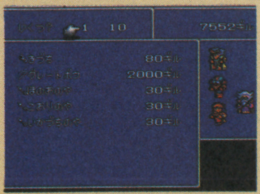


人々の様子は?

町のみなさん、世界の状況のことなんか考えもせず、楽しく遊んでおります。その様子はさながら、夜の歓楽街のようです。ま、セシルには関係ない!?

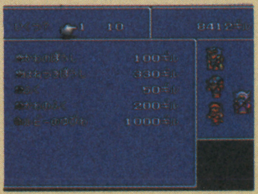
❶武器屋

弓矢関係は、とくに買う必要はないだろう。木槌にしても、同じことだ。



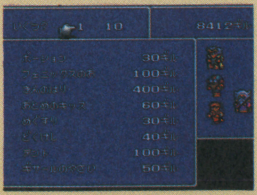
❷防具屋

なぜ、ここでは鉄製品が売られていないのか？ その答えは、後ほどわかる。



❸道具屋

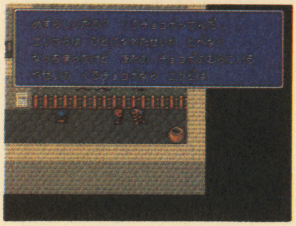
ポーション、テントなどの回復アイテムを購入しておくといいかも。



土のクリスタルは何処(いずこ)へ?

みんなの話を総合して考えたすえ、土のクリスタルは、トロイア王国の北東の洞窟。その奥深く、結界をしいている、ダークエルフという魔物が持っていることが判明。問題は、そこへ行くための手段。入口のあたりを森がおおっているため、飛空挺で行くのは無理なのだ。しかし、何かしら方法はあるはず。とにかく土のクリスタルを取り戻さないと、ローザを救うことはできない……。そうだ‼ 確かトロイア王国の北方に……。

トロイアの人々は困りはてている。しかし、それ以上にセシルはもっと困ってしまう。どうすれば？

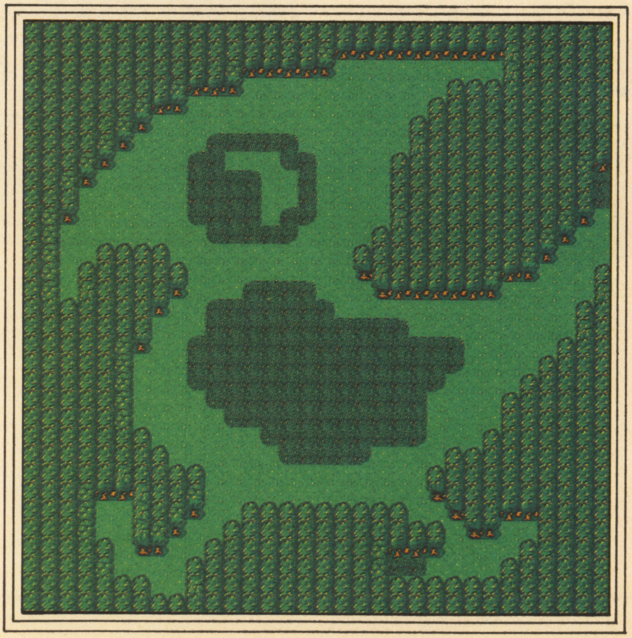

とにかく、クリスタルを取り戻してくるしかないようだ。しかし、どうやって取り返せば……？

そうか⁉ 黒チョコボなら、森の上にも止まることができるはず。ダークエルフの洞窟には、黒チョコボに乗っていけば‼

チョコボの村

その名の示すとおり、チョコボしか生息していないところ。あらゆるチョコボが元気よく歩きまわっている。もちろん、黒チョコボも含めて。

でぶチョコボは、村の入口のすぐ左の部分に隠れている。いつものように、ギサールの野菜を使えば呼び出せるぞ。



ダークエルフとの決戦は近いぞ!!

「ダークエルフから、クリスタルを取り戻して下さい」「取り戻してくれたなら、貸してあげましょう」先ほどの女性神官たちの声が、セシルの頭のなかを走馬燈のように駆けめぐっていた。いまセシルは、黒チョコボの背に乗って、仲間とともにダークエルフの洞窟に向かう最中なのだ。「よし、着いたぞ!!」目の前に、鈍く銀色に輝く洞窟の入口が見える。

常に警戒しながら、洞窟内部へと1歩ずつ進んでいくセシルたち。「よし、内部の通路に出たぞ!!」その瞬間、どこからともなく、全身が吸い込まれるような感覚をセシルたちは感じた。「なんという磁力じゃ。これでは金属製の武器、防具を身につけている者は、身動きがとれないぞ!!」あわててテラが叫ぶ。となると、いったいどうやってダークエルフの元へ!?

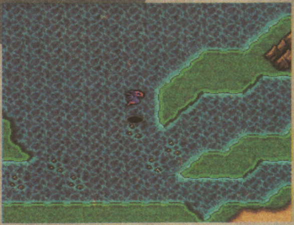
山を飛び越せないが、それ以外ならどこへでも飛んでいける黒チョコボ。

いつものように、こまめなセーブを心がけよう!! そして、この先セシルたちは!?

黒チョコボ

最近になって発見された、新種の空を飛べるチョコボ。世界広しといえども、生息場所はトロイア王国の北方、チョコボの村に限られている。

山みたいな高いところを飛び越すことはできないが、長時間連続飛行が可能。森にしか降りれず、いったん降りるとその場でじっと待っている。再度乗り直すと、チョコボの村へ戻るぞ。

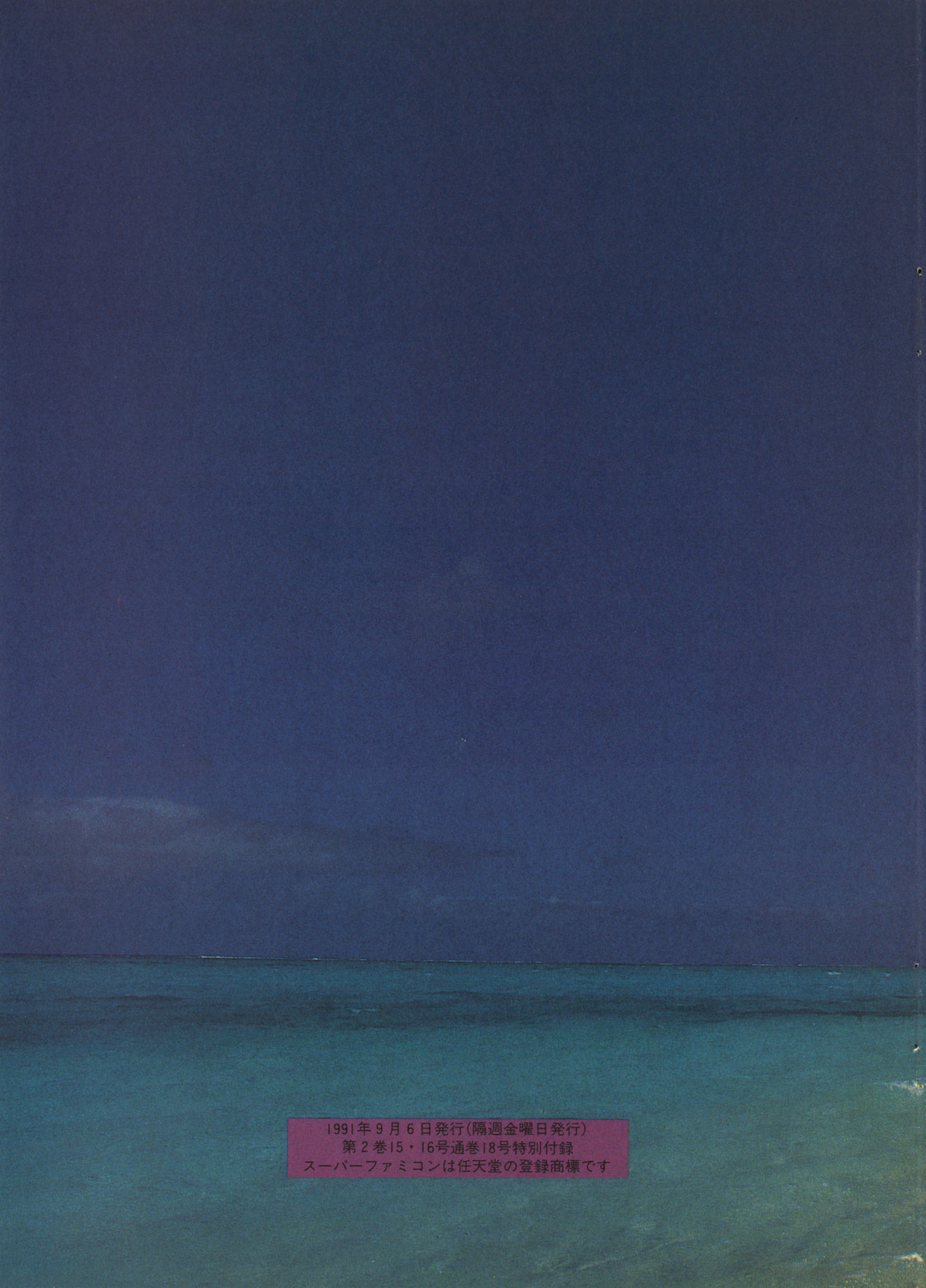


飛行!!

飛空艇と違い、低空飛行なので、あたりの地形が非常に見やすい。改めて、これで世界一周をすると楽しいかもね。

着地!!

森にしか降りれないのが唯一の難点。これは余談だが、飛行中の音楽が実に軽快でテンポよく、気分をなごませてくれるだろう。



1991年9月6日発行(隔週金曜日発行)
第2巻15・16号通巻18号特別付録
スーパーファミコンは任天堂の登録商標です